

# 触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

## Trip to US Mountain Area

丹羽 幹

私は1978年秋から80年の初夏にかけて、Texas A&MのLunsford先生の研究室でポスドクをやらせてもらった経験があります。このとき、2年目の夏に家族で、乗り心地はいいものの走りには非常に不安のあるシボレーの大型車に乗って、アメリカ西部Mountain Areaをドライブ旅行にでかけました。約二週間でしたが、これは一生で一番たのしい記憶としてつよく心に残るものでした。ぜひもう一度行きたいというのが、したがって、私どもの長年の夢でした。ただしそうはいつてもなかなか時間が取れませんでした。しかし今年第一線を退きましたので、今がチャンスと思いました。体力のことを考えると今しかないかもしれないと思いました。第一線を退いたといっても、まだ毎週の講義もありますし、研究の仕事も続けていますので、いつでも良いというわけでもありません。そんな中で、ぽっかりと予定があいていたのが今年9月の前半でした。そこで思い切ってこの時に長年の夢を実施に移すことにしました。日程は9月5日から17日までの13日間と決めました。

今回の旅行は前後半の二つに分けることができます。前半の目的地はTeton-Yellowstoneの北部のNational Park、後半はGrand Canyon-Monument Valleyの南部の山岳地帯です。初め成田からSalt

Lakeにいき、Jackson Holeまで乗り継ぎます。そしてこの地を起点として、はじめに北側をまわり、いったんSalt Lakeにもどってきて、Phoenixに飛び、ここからGrand Canyon, Navajo Monument Valley, Bryce Canyonと迂回し、Las Vegasに寄った後、再度Salt Lakeを経由して成田に戻るというものでした。

### Driving

旅行行程中、つまりJackson HoleからLas Vegasまでになりますが、一度だけ飛行機にりましたが、あとは車での移動となります。はじめは、この車の運転にやや不安を感じました。左ハンドルで右側通行は慣れないので、大丈夫なのかと思ったわけです。ところが、運転がはじまるとそれほどのことではなく、すぐに慣れてしまった。だいたい道路事情が非常によいように、車の数が日本と比べると格段にすくないので、これならとても楽だという印象になりました。

アメリカの速度制限は、以前は最速で55MPH (mile/h) だった。これは88km/hに相当しますので、以前のアメリカ人は比較的ゆっくりと余裕をもって走る人が多かった記憶があります。ところが、今回行ってみますと、速度制限が上がり、USという基幹道路で65、日本の高速に相当する

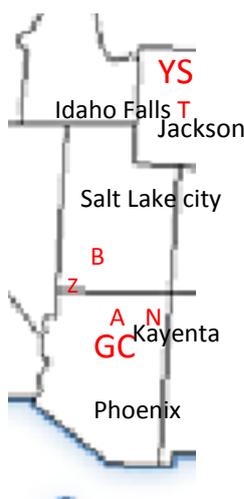
Interstate では 75MPH まではねあがっており、これには少々驚きました。私の運転はもともと人よりも遅いというのが特徴です。この 75 という速度にはとてもついていけなかった。昔と比べ、道路も車もよくなったので、制限をあげたのでしょうか。

アメリカで車といえば、すぐ故障の話になるというくらいよく故障するのが特徴だったので、今回も運転中砂漠の真ん中で車がとまってしまったらどうするかということを考えておかねばならなかった。しかし、今回借りたレンタカー、前半のシボレーのミニバン、後半のトヨタカムリともにいい車で問題はなかった。燃費も許せる程度だったので、車はよくなったのだと思った。また両方の車ともにナビがついており、日本語にすることもできたので、頼りにした。しかし、中には矛盾した誘導もあり、画面の表示もぱっとしたものではなく、この点は明らかに今使っているもののほうがよいと思う。ただ、このナビという便利なシステムはアメリカ軍の GPS が基礎になっているものなので、こんなところでアメリカ車にケチをつけ、まったく意味がないということとはよくわかっているつもりです。

### US National Parks

今回行ったアメリカの国立公園はすべてが二度目の訪問地でした。予備知識をもって旅行計画をたてましたので、それなりに合理性があったといえましょう。やはり、Yellowstone と Grand Canyon が重要なところであることはわかっていて、それぞれ二日間滞在することにしました。前回はよくわからないまま重要なところを通り過ぎたので、その反省もありました。今回はできるだけ時間をかけて、じっくり丁寧に見聞し、それらの良さを実感できるとよいと思いました。ただ、Grand Canyon 内のホテルをとるのが非常に難しい。公園外にあ

る一番近い町 Flagstaff が 50 マイルほど離れているため、行き来するのは容易ではありません。ただ、ネットを見ていたらたまたま Cancel がはいたらしく、ホテルを予約できましたが、この幸運は非常に重要でした。一方 Yellowstone は、Old-faithful Inn は例外として、宿泊施設は貧弱ですが、複数ある公園の入口近くにホテルがたくさんあり、対応は容易だと思います。



US National parks and Navajo Tribal parks\*

YS: Yellowstone

GC: Grand Canyon

A: Antelope Canyon\*

B: Bryce Canyon

N: Navajo Monument Valley\*

T: Teton

Z: Zion

Yellowstone は本当に大きな面積をもち、アメリカ人の最も好きな公園であると聞いています。比較が個人的ですが、面積はなんと鳥取県の二倍半である。野生動物の豊富さ、山岳地形の面白さ、間欠泉の楽しさ、滝の流れの豪快さ、などどれをとっても一見の価値があります。今回は少し長くいてトレイルなどもしたせいか、それらの多様性を実感でき、アメリカ人の誇る公園の意味が少しわかったような気がしました。ところが、20 年ほど前に、落雷による山火事によって、その半分ぐらいが燃え尽きてしまった。山火事は自然現象であり、人間の干渉はできるだけしないという考えから、延焼の拡大を積極的に防止しなかったそうで、いまでも燃え残って炭化した樹木を見ることができた。焼け野原にある松ぼっくりが割れて種が散り、徐々に樹木に成長し

ていると説明があった。

車が渋滞することが良くありましたが、そのほとんどは野生動物のせいでした。一番よく顔をだしたのは、Bison という顔の周りが毛むくじゃらの大型の牛でした。愛嬌もなにもなく、ほとんど人間を無視して、ゆっくりと歩いている。一度ベンチに座っていたら、すぐ後ろにのそのそとやってきた。初めはよくカメラを向けたが、あまり機会が多すぎるので、最後は無視してしまった。どうやら増えすぎたようだ。なお、アメリカ人はデジタル一眼レフが好きなようで、Canon と Nikon のデジタル一眼をあんなにたくさん見ることは日本ではないと思う。

Grand Canyon は前回あまり強い印象をもった所ではなかった。この理由は、地形が極端におおきいため、どこをどう受け止めたらよいのかわからなかったのだと思う。そこで、今回は、Canyon 内に少しだけ入ってみることにした。私たちは夜のあける 30 分前、午前 5 時 50 分ごろ谷底にむけており始めた。道はしっかりと作っており、恐怖を感じるようなところではない。しかし、入口には、トレイルの危険性が告知しており、炎天下での行動は絶対慎まねばならないと思った。だいたい我々は十分に高年齢であり、1 時間半降りたらやめることにした。このトレイルでは、何となく山歩きの仲間意識もめばえ、何人ものアメリカ人とも話をすることができた。われわれよりも先に降り出した年輩の女性二人はこのまま谷底までおりていき、コロラド川をいかだで下って、全部で 9 日の旅をするのだと言っていた。歩き方が遅すぎる人たちで大丈夫かと思っただけ、私も次はやってみたいと言っておいた。またスキーのストックのようなものを使って歩いてくる人が何人もいた。これはノルディックウォーキングというものだそうで、長距離の歩行が可能だそうで

ある。これまた、どこでもいから一度やってみたい。また、ラバ (Mule) に乗っていく数人の人々にも出会った。とにかく、アメリカ人はいろいろな形で楽しんでいる。

### Navajo Monument Valley

さて、実は最も行きたかったのは、Navajo Monument Valley だったのです。あの広大にして荒々しい風景は一度見ると忘れられません。したがって、Grand Canyon から Navajo に到着した際、よく一生で二度もこの地に来られたという感慨をもった。この Navajo Monument Valley は US の国立公園でなく、Tribal Park です。以前は、お粗末な建物がたっていて、景色はあまりに素晴らしいが、これは人間がすめるところか？という印象が強かった。ところが、現在は見晴らしの良いところにきれいなホテルが建てられており、食事ができるようになっている。つまり、観光地化したといえようか。もちろん風景に違いはなく、今回はツアーに参加して、トラックの後ろに幌をかけたような車に乗って、内部を見てまわった。何度見ても圧倒される景色で、一度はご覧になることをお勧めしたい。

ナバホのことをご存じでない方のために少し説明しておきます。ナバホは US 内における一種の独立国です。住んでいるのは、昔風にいうと Indian で、最近はこれを Native American と言うらしい。US との関係については熟知していませんが、独自のものを持っています。今回は Kayenta という町にとまりましたが、マクドナルド、バーガーキング、それに Gas Station と我々の泊まったホテルがあっただけです。ただしこのホテルの設備は立派なもので、値段も今回の旅行で最も高かった。アルコールは禁止で、食事中は水だけしかできません。この場所のあるアリゾナは夏時間を採用していないのですが、ナバホは夏時間を利用す

るなど、二三独特のものがあります。

なお、今回は新しいところとして、ドライブ時間が長すぎて退屈であるという理由で Antelope Canyon というところに立ち寄った。これもまた Navajo のもつ公園の一つで、小ぶりながら、誠に幻想的な不思議な景色の洞窟であった。道中がひどい道のため、ツアーに乗らねば行けないが、客はかなり多く集まっており、流行の観光地のようである。



### Trouble

旅行に行くとなにかしらのトラブルに見舞われます。私の場合はよく腹痛・下痢などになりやすいということがありますが、今回それはなかった。今回はやや書きにくいのですが、同行した妻が途中のガソリンスタンドのトイレにパスポートをいれたハンドバックを忘れるという、まことに信じがたいミスをしてしまった。Yellowstone から Idaho Falls への 100 マイルほどの道のりの途中ですが、適当なトイレのない道路で、やむを得ずガソリンスタンドに立ち寄ってトイレを利用させてもらった。それが、Idaho のホテルについたところではじめて忘れ物に気づきました。ところが、どの町のどのガソリンスタンドだったのかまったくわからないという難題で、一瞬途方にくれてしまった。ただ、道中にほとんど町のないところで、場所はどうやら Rexburg とわかりました。そこで、Rexburg の警察にお願いしたりしていましたが、ホテルのフ

ロントに親切なアメリカ人が一人いて、いろいろと調べてくれました。その時彼が使っていたのは iPhone でさまざまな情報をくれました。上に書いた車の故障と関連することですが、何らかのトラブルになった時に何かと調べることが必要だと思い、ネットにつながぐために新調の iPad とレンタルの携帯電話をもっていきました。実はこの二つが威力を発揮しました。iPad のマップで、ここと思しき場所を画面にだし、Gas Station と検索しますと、ばらばらと数個のピンがたちます。そこにある *i* のマークをクリックすると、電話と URL の情報があれば出てきます。そこで、出てきた電話番号に電話して問い合わせるという方法でした。私のかすかな記憶に、Main という道路名がありました。その位置にはピンはたちませんでした。実はこれは GPS の誤差が原因で、立ったピンの四つ角の対面が正しい位置でした。ようやく場所をつきとめ、店のほうでキープしているということでしたので、20-30 マイルを走って取りに行きました。ホテルのフロントやたまたま近くにいた男性、警察の人、ガスステーションの人、それら Idaho の皆さんは本当に親切にしてくれ、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。田舎のアメリカ人の面倒見の良さをよく実感できました。このトラブルを完全に終わることができたのは夜の 12 時ごろでしたが、不思議なことにそれまで腹も減りませんでした。こういう時に頼りになるのは、日本・アメリカを問わずマクドナルドの Drive-through でした。パスポートだったから徹底的に調べましたが、バックだけだったからあきらめたと思います。ネット社会の威力をまざまざと知らされたトラブルでした。